

日本小児感染症学会若手会員研修会第5回福島セミナー

若手セミナーを振り返って

森内浩幸*

今年の夏季セミナーは福島県磐梯熱海で開催されました。「自ら調べ、グループで討論し、まとめて発表する」夏季セミナーでは、セミナー開催の前後でもたくさんの作業を参加者はこなしていきます。顔がみえないままのメールのやりとりからスタートし、磐梯熱海に着いてから（一部の人は前夜祭のときから）の顔合わせ、ちょっとごちなくスタートした対面での話合いが、最後はほぼ徹夜の熱心な議論のなかでまとめあげていきました。その熱が冷めやらぬまま原稿にまとめあげた成果が、本誌のなかで紹介されています。

今年磐梯熱海で開催した最大の理由は、遠隔地～特に東北からの夏季セミナー参加者が少なかったことにあります。そして…磐梯熱海での開催は大成功でした！ 目論見通り東北からの参加者が増えたことに加え、福島ホスピタリティで施設の人たちも、地元福島で支援してくださった先生方も温かく迎えてくださり、随所におもてなしの心が満載されていた2日間でした。紙面をお借りして、改めてお礼申しあげます。この福島ホスピタリティのお蔭もあって、幸い今回も参加者からは非常に高い評価を得ております。

毎回述べていることですが、「教える」ことほど

「学ぶ」ことができる機会はありません。私たちチューターも教えることによって学んでいます。ここで学んだ若い学会員が感染症に苦しむ子どもたちを助けるために一生懸命働き、そして彼らもまたやがて自分たちの後輩を教えていくようになるでしょう。

このセミナーにおける流行語大賞は「over 50」でした。私を含めた年配者は昔の常識に囚われてしまっ、現在の感染症診療における重大な危機に気づかないでいることに警鐘を鳴らした言葉でしたが、over 50はover 50なりの知恵と経験を気持ちだけは若く、元気に発信していきました。そのような「縦のつながり」に加え、参加者は同世代の仲間たちとの熱い議論のなかで「横のつながり」を作ることもできたと思います。いろんなことを相談し合うことができ、一緒に取り組むことができる仲間を得ることは、今後の大きな財産になります。たった1泊2日、正味24時間の滞在ではありましたが、参加者が今後につながる大切なことをつかんでくれたことを確信しています。

来年は岡山で、鬼ならぬ病原体退治の桃太郎になるために参集しましょう！

* * *

* 日本小児感染症学会研究教育委員会委員長